

住み続けたいまち おかだ  
～ Move forward together ～

共に岡田の未来を描こう  
Okada Community



岡田コミュニティ  
<http://okada-community.main.jp/>



〒761-2402  
香川県丸亀市核歌町岡田下 516-1  
TEL : 0877-86-3001  
[okada-center@md.pikara.ne.jp](mailto:okada-center@md.pikara.ne.jp)

## はじめに

みなさんのご協力のおかげを持ちまして、おかだの第II期まちづくり計画ができあがりました。

平成 23 年 4 月に第I期まちづくり計画(5カ年計画)がスタートし、その計画にもとづき、おかだのまちづくりを進めてまいりましたが、この計画も平成27年度で終了です。そこで、新たな計画が必要ということで、まちづくり計画プロジェクト、まちづくり計画策定委員会を立ち上げて検討を進め、このたび第II期まちづくり計画が完成の運びとなりました。

第I期まちづくり計画では、「住み続けたいまち おかだ」の実現をめざし、精力的に取り組んでまいりました。その結果、まちづくりは着実に前進していると考えます。

一方、これらの事業を進めた5年間に、岡田地区をめぐる環境は大きく変わり始めています。まちの景観が変わるほどの国道整備をはじめとして、250人を超える人口の減少(H22→H27)、こどもの声の聞こえない地区の増加、認知症や高齢者問題の顕在化、遊休農地の増加、地域活動の担い手不足、住民同士のつながり意識の低下など。また、数年先には、団塊の世代をはじめ、いま地域活動の中心となっている世代、層の厚い年代が第一線を退く懸念もあります。もちろん、これら以外にもさまざまな問題や課題が浮かび上がっています。そして、その一方で、全国的に行財政改革や地方分権が進むなか、丸亀市においても地域社会の形成におけるコミュニティの役割がますます高まってきています。

そうした状況のなかで、コミュニティとしては、地域の抱えるみなさんの生活に密着した問題や課題を掘り起こし、みなさんと共有するとともに、それらの課題に優先順位を付け、コミュニティ自らがやるべきことと行政に働きかけ実現を図ることを区別し、着実に対応していかなければならないと考えます。

今回、まちづくり計画策定にあたり、まちづくりアンケートなどを通じてみなさんから貴重なご意見を頂きました。そこからは、高齢者世帯の支援についての強いニーズ、地区にこどもがいないという切実な声、気軽に交流できる場所がほしい、農業が衰退し地盤沈下の進む岡田地区を何とか活性化したいという思い、住民同士の助け合いを大切にしたいという多くのひとからの意見など、このおかだのまちを何とかしていま以上に住みやすいまちにしたいという強い思いが伝わってきました。

第II期まちづくり計画では、それらをふまえて、めざすまちをI期と同様、「住み続けたいまちおかだ」とします。そして、それを達成するため、「助け合い・支え合い、こどもの育成、地域の活性化」をキーワードとして、取り組むことといたします。

一人ひとりの力は知れていても、一人ひとりが自分のできることを持ち寄り、お互いに協力すれば、必ず前進することができる、だれにも「住み続けたい」と思ってもらえる「おかだ」に近づき、実現できると信じています。

地域のみなさんには、引き続き、コミュニティ活動に、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

平成28年4月

岡田コミュニティ  
会長 渡辺 佳廣

## 1 岡田の概要

1-1	位置と現状	1
1-2	歴史	1
1-3	人口・世帯数などの変化	2
1-4	主要地目別土地面積	3
1-5	産業	3
1-6	公共施設	4
1-7	公園	4
1-8	神社・仏閣	4
1-9	古代の遺跡	5
1-10	無形文化財	6
1-11	ため池	7
1-12	年中行事	7

## 2 まちづくり計画

2-1	まちづくり計画の位置付け	8
2-2	第Ⅰ期まちづくり計画の評価	9
2-3	地域住民の意識	12
2-4	まちづくりにおける地域の課題	16
2-5	めざすまち	18
2-6	まちづくりの目標	19
2-7	計画事業	20

まちづくり計画事業と事業の細目	23
-----------------	----

## 資料編

1	まちづくり計画策定委員名簿	30
2	コミュニティ組織図	31
3	岡田のため池一覧	32
4	岡田の歴史年表	33

## 1 岡田の概要

## 1-1 位置と現状

岡田地区は香川県のほぼ中央に位置し、地形は南に高く、北に緩やかに傾斜した台地状になっており、比高差 10～15メートルで丸亀平野に接している。東には讃岐七富士のひとつ堤山があり、西は西山と1級河川である土器川が隣町と境している。また、南は綾歌三山(城山、猫山、高見峰)が連なり、北には讃岐富士(飯野山)を望むことができる。気候は温暖で災害も少なく、自然環境や自然条件に恵まれた地域である。また、南部山地を除く平坦部には農地が広がり、ほぼ全域が農業振興地域に指定された農村地帯である。そして台地上を流れる小河川は随時せき止められ、そこには多くのため池が築かれている。

このほか地区内には平成22年11月に全線4車線化された国道32号をはじめとした県道が縦横に走り、県内唯一の私鉄であることでんとともに県内の主要都市とは比較的短時間で行き来できる環境にある。

## 1-2 歴史

地区内は古くから人々の生活の場として開け、各所から住居跡、土器片などの遺物が出土しており、その起源は旧石器時代にまで遡ることができる。その後も人々の営みは、各時代を通じて継続されていく。平安から室町時代にかけては「井上郷」に属し、戦国時代には「岡田里」江戸時代のはじめは「岡田郷」と表記されて一つのまとまった地域となっている。「井上郷」を連想する「井ノ岡」、「岡田」を冠した「岡田神社」「岡田廃寺」「岡田万塚」、廃寺跡を伝える「徳善寺」「蓮光寺」「岡田廃寺」「成願寺」、開発領主名を思わせる「俊正」「重永」「重光」「森後」などの地名は、いずれも岡田上から岡田西にかけての大東川本流域に広がっており、この地の開発が西部から進んだことを示している。

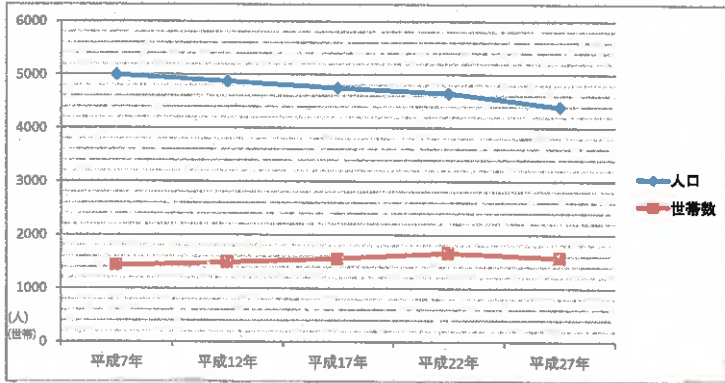
江戸時代に入って「岡田郷」は生駒氏の領地から1642年高松藩領となり、岡田上、岡田下、岡田東、岡田西、の4か村に分村して統治が行われ、明治維新を迎えた。そして、明治22年には、更にこの4か村が合併し、岡田村となった。

その後、昭和34年4月1日には、隣村の久万玉村と合併して綾歌町となり、この綾歌町も平成17年3月22日には丸亀市、飯山町、と合併して新しい丸亀市の一部となり、現在に至る。

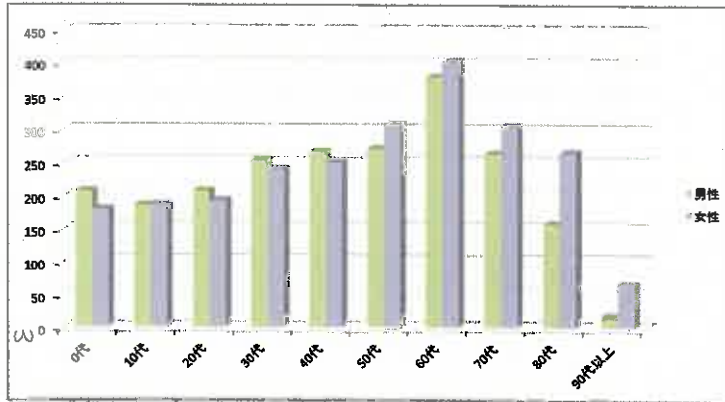


1-3 人口・世帯数などの変化

(1) 人口及び世帯数の推移

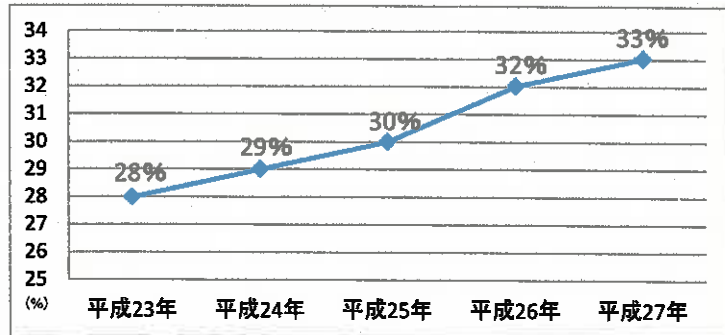


(2) 年齢別人口



(3) 高齢化率の推移 (65歳以上)

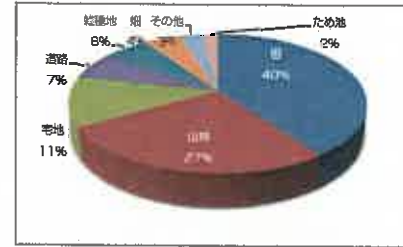
<各年4月1日現在>



1-4 主要地目別土地面積

単位：ha <平成27年>

田	山林	宅地	道路	雑種地	畑	ため池	その他
410	272	117	67	62	46	17	34



1-5 産業

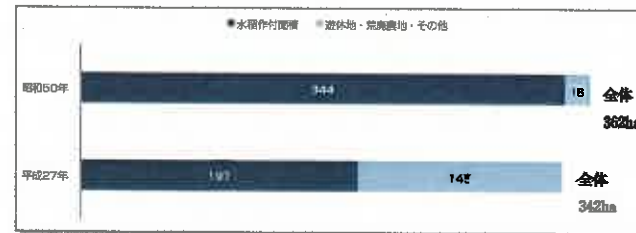
本地域は、古くから水稻、麦を中心とした「米どころ」であるが、米価の下落もあって水稻作付面積は減少の一途をたどり、近年は耕作放棄地も大幅に増えている。

現在では、レタス、アスパラガス、ナス、菜花、モロヘイヤなどの野菜類の栽培も盛んに行われ、おもに関西市場へ出荷している。

商業では小売り店舗が中心となっているが、道路網の整備や近隣に大型スーパーが次々誕生したため、商業圏域が大きく変化している。製造業では私たちの日常生活の必需品である衣料品・食品加工工場や金属加工工場などがある。地域内を通過する国道32号が4車線化されるなど主要幹線道路の利便性が向上するなか、今後、更なる変革が考えられる。

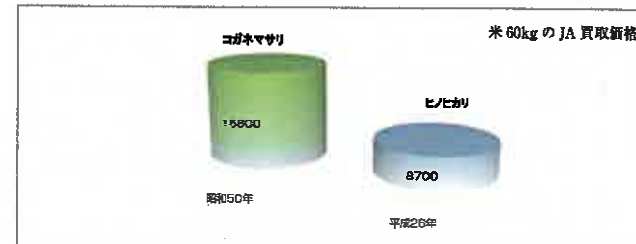
岡田の水稻作付面積の変化

単位：ha



米の買い取り価格の変化

単位：円



## 1-6 公共施設

地域内には、岡田コミュニティセンター、森林公園管理棟、岡田小学校、あやうたこども園、岡田保育所、丸亀警察署岡田駐在所、桜谷聖苑等がある。

なお、平成 25 年 8 月に新しく建て替えられた岡田小学校の新校舎は、環境にやさしい施設として児童や地域住民に親しまれている。

## 1-7 公園

地域内には、綾歌森林公園、鴻ノ池公園、打越やすらぎ公園、綾歌総合運動公園、綾歌土器川公園の 5 か所の公園がある。



## 1-8 神社・仏閣

## (1) 神社

岡田上・・・池之宮神社、美古神社、皇子神社、八坂神社、枚岳(ヒラオカ)神社  
室塚神社、水分(ミクマリ)神社、片山神社

岡田下・・・宇間(ウベ、ウエ)神社、恵美須神社

岡田東・・・椎尾神社、下土居神社、

岡田西・・・岡田神社、楨(ムクノキ)神社、皇子神社 等がある



## (2) 仏閣

延命寺、法城寺、慈光寺、西覚寺、光照寺等がある。



## 1-9 古代の遺跡

## (1) 古墳

岡田台地上には古墳時代の各時期に多くの古墳が築かれており、現在においてもその幾つかが残されている。古くは、南部山林に弥生時代に築かれた墳丘墓があることから、他地域と比較しても古くから権力者により治められた先進的な地域であったと考えられる。古墳時代に築かれたものとしては、岡田西の新池西側に、巨大な前方後円墳である車塚が所在する。これは、報告によると古墳時代前期(4世紀頃)に築かれたもので、当時、付近に巨大な勢力があったことがうかがえる。

古墳時代中期には、新池の周辺に中小円墳が数多く築かれており、その数は 100 基近くであったようで、岡田万塚と称されている。古墳時代後期には、横穴式石室を持つ古墳が築かれるようになり、岡田上の西打越、津森に平石古墳群や津森穴薬師古墳などが、岡田東の仁池西の北原付近に北原古墳などが確認されている。



## (1)市指定史跡(中世の城郭)

## ・西長尾城跡(平成16年9月27日指定)

岡田地域の南部は城山(しろやま)がそびえ、丸亀平野の南限となっている。城山は標高375.1mを測りその山頂からは、眼下に丸亀平野、更に瀬戸内海、岡山県、愛媛県、屋島、満濃地域などを眺望することができる。この絶好の立地を活かし、中世城郭である西長尾城が築かれた。西長尾城は1368年～1579年に長尾大隅守一族、以降1585年まで国吉甚左衛門が城主を務めた。山中には、連郭式曲輪列や空堀など多くの遺構が残されている。西長尾城は、国吉城、長尾城とも称されている。



西長尾城跡連郭式曲輪列



西長尾城跡空堀

## 1-10 無形文化財

## 市指定無形民俗文化財

## ・岡田おどり (昭和47年11月1日指定)

「米どころ」の歴史を顧みると、温暖な気候に恵まれた岡田は、反面少雨により降水に恵まれず、日照りにより耕作地を潤す水の確保に苦勞を強いられてきた。

特に寛永3年(1626年)の大飢饉や農民の水争いを目の当たりにした大庄屋・岡田久次郎は、水田の少ない岡田に水を引く計画を立て、炭所に適所を見つけると巨額の私財を投じて岡田の荒地に水を引き、米のとれる土地にしよう決意、2年の歳月をかけて亀越池を築造(1633年9月完成)し、岡田の地を潤した。

岡田おどりは、久次郎の遺徳を偲んで踊ったのがその始まりといわれ、戦前まで「岡田盆楽会」として伝承されてきた。その後一時中断したが、戦後に復活し、「岡田おどり保存会」により継承され、小学校の運動会や岡田久次郎まつりでも踊られている。

現在も毎年、久次郎の業績を称え亀越池土地改良区と地元佐正地区の人たちの有志によって法会が行われ、その功績を語り継いでいる。



岡田久次郎翁像



岡田久次郎翁顕彰碑



岡田おどり

## 1-11 ため池

香川県は全国でもため池密度がもっとも高く、約14,000箇所のため池がある。それだけ降水量が少なく、河川が短くて急こう配であるため、ため池が必要だったのである。わがまち岡田でも名前のあるため池は現在でも約80箇所ある。亀越池をはじめ先人たちが築き上げてきたため池の歴史を知り、水の恩恵に思いを致すために、また防災上の特定からも、わがまちのため池の名前は是非知っておきたいものである。

(岡田のため池一覧：資料編P32に掲載)

## 1-12 年中行事

古くから伝えられてきた行事、新しく定着してきている行事

以下に主な年中行事を示す。

正月の行事	・氏神参拝・成人式・出初め式・書き初め・鏡開き ・とんど焼き
春の行事	・節分・雛祭り・端午の節句・社日・神社春市・百々手 ・コミュニティまつり・校内運動会・久次郎まつり
夏の行事	・用水浚え・池のユル抜き・七夕祭り・灯籠流し
秋の行事	・敬老会・秋の大祭・うま節句・岡田久次郎法会 ・池之宮神社祈願祭・社日
冬の行事	・消防夜警・餅つき・冬至・除夜の鐘・お日待ち

## &lt;注&gt;

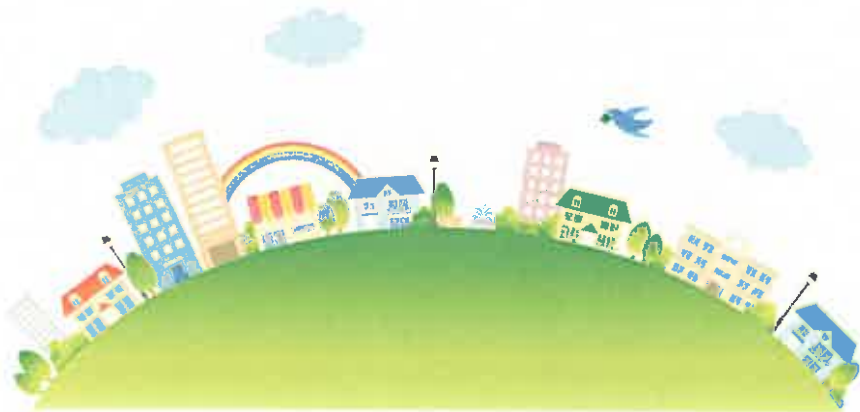
とんど焼き	正月飾りやしめ縄、古いお札などを燃やす正月行事。この火でもちを食べると一年中健康でいられる。
百々手	春を告げる神社の伝統行事。百本を超える矢を放ち、五穀豊穡、厄除け等を祈願する。
池之宮神社祈願祭	祭神は高靈神(たかおかみ)・天水分神だが岡田久次郎・木村甚三郎二氏の霊を合祀し、その遺徳を偲んで祈願している。(秋分の日)
お日待ち	旧暦1・5・9月の15日に神社(荒神さん)に集まり、神の傍で夜を明かして日の出を待ち拝む。生活のほとんどが自然の力に委ねられていた時代、太陽を「お日様」と呼び、その恵みに感謝した。

## 2 まちづくり計画

## 2-1 まちづくり計画の位置づけ

コミュニティには、「安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会を築くため、地域の課題解決やまちづくりに自発的かつ主体的に取り組む」ことが求められている。

このため、岡田コミュニティでは、平成 23 年 4 月に、岡田のまちづくりの羅針盤となる最初のまちづくり計画を策定し、その計画に基づきまちづくりを進めてきたが、その計画が平成 27 年度で終了する。そこで、今回、改めて平成 28 年度を初年度とする第Ⅱ期まちづくり計画(計画期間 5 年間)を策定することとする。



## 2-2 第Ⅰ期まちづくり計画の評価

第Ⅰ期まちづくり計画は、「住み続けたいまち おかだ」を実現することをめざし、そのために4つの目標を掲げて、コミュニティの活動として取り組んできた。それぞれの項目で掲げられた事業計画の実施状況を見ると、まちづくりは着実に前進しているといえる。

その一方で、コミュニティで取り組むものと各種団体・機関や自治会が中心になって取り組むもの、さらには行政に求めるものなどの仕分けや相互の連携、情報共有の点で不十分なところがあり、一部未着手の事業があったのも事実であり、次期計画に反映していく必要がある。

以下は、目標ごとのおもな評価である。

## (1) 安心して暮らせるまち

- ◆ 防災関連では、防災訓練を毎年実施したほか、24年には防災マップを制作し、全戸に配布した。また、防災研修は役員を中心に実施したほか、防災講演会についても随時実施した。なお、危機管理マップの作成については、未着手となった。
- ◆ 防犯関連では、子ども安全パトロールを年間を通じて実施しており、大きな問題は発生していないがパトロール者の確保が課題となっている。また、危険箇所パトロールについては、子ども安全パトロールに合わせ実施したもののほかは実施できておらず、危険箇所のマップ化も今後の課題となっている。なお、計画には無かったが、振り込め詐欺の防止に関する出前講座を実施している。
- ◆ 交通安全関連では、道路整備などの要望書を随時提出した。また、カーブミラー清掃は毎年実施している。さらに、高齢者の健康支援事業は、長生部の発足(H26年度)に伴って、運動会などを実施している。なお、交通事故マップの作成、安全運転アピールは未着手となっているほか、地域交通意見交換会については、コミュニティバスについて要望を出すなどはしたものの、地域交通全般に関する意見交換会は実施できていない。
- ◆ 子育て支援関連では、子育てサロン等の独自の取り組みは未着手であるが、香川県助産師会の相談会がコミュニティセンターで定期的で開催され、利用者からは喜ばれている。



## (2) 自然と環境を大切にすまち

- ・環境美化関連では、天神ロータリーのふれあい花壇づくりが定着している。
- ・森林公園整備関連では、森林公園の遊歩道・駐車場などの草刈りや整備が、NPOや有志の活動あるいはコミュニティとの協働で実施されている。
- ・地域環境の改善・保全関連では、自治会等とともに町内一斉清掃や土器川清掃に積極的に取り組んできた。岡田十景については、選定と写真展までは進んだ。また、浄化ばかしづくりや段ボール肥料作りは関係者から喜ばれている。なお、生活用水路の清掃、道路公園の清掃美化、環境講演会の開催については未着手である。
- ・遊休農地・耕作放棄農地の活用関連については、未着手となった。



## (3) 人がいきいきと輝くまち

- ・このテーマの事業は、総務部、福祉部、体育部、長生部など各部の取り組みと、コミュニティまつりなど各種団体や学校、保育所、幼稚園などとの協力・協働も含めて定着し、成果を上げている。
- ・具体的には、食の安全・安心講習会、男性のための料理教室、親子パン作り教室、グラウンドゴルフ大会、ゴルフコンペ、米消費拡大ふれあい交流、コミュニティまつりふるさと探訪、布草履づくり教室、俳画・大正琴、いきいきサロンなどを実施した。



## (4) 地域に根ざした協働のまち

- ・地域内情報の共有化関連では、コミュニティだよりの年4回発行が定着した。また、ホームページはリニューアルして親しみやすくなった。その一方で、コミュニティが何をしたらかを知らせるにとどまっており、地域の課題等を含め発信していくような紙面づくりには、なっていない。
- ・にぎわいづくり関連では、久次郎まつりの支援を行った。しかし、その他の野菜生産者と消費者の交流、地元産野菜やいちごの試食会等は、一部を除き未着手となった。
- ・地域活動の担い手支援事業として、退職者のための地域活動講座に取り組む計画だったが実現していない。





## 2-3 地域住民の意識

### (1) アンケートに見る住民意識

岡田コミュニティでは、今回、まちづくり計画を策定するにあたり、広く住民の声を聞くために「まちづくりアンケート」を実施した。その主な結果は、次のとおりである。

#### a 日常生活における主な交通手段

・ほとんど(92%)の住民が、日常生活における主な交通手段を“自家用車またはバイク”に頼っており、80歳以上に限っても、なお81%が“自家用車またはバイク”を利用している。

#### b 岡田の住みやすさ

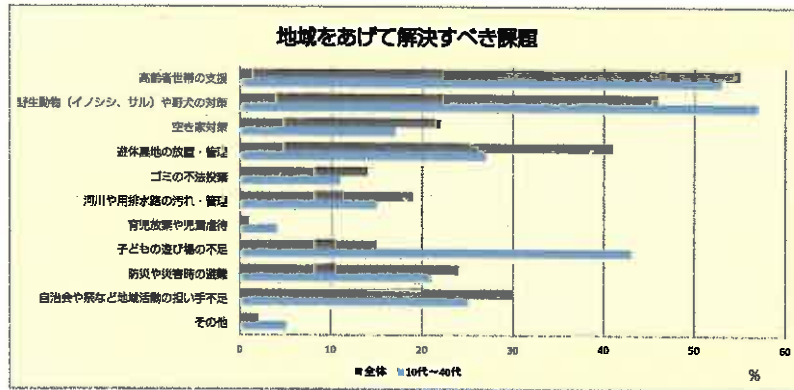
・82%の住民が、岡田は“住みやすい”と感じており、“住みにくい”と感じているひとは7%にとどまっている。

#### c 岡田に住み続けたいか否か

・“これからも岡田に住み続けたい”と思うひとの割合は、80%である。この数字は、上記の住みやすさと感じるひとの割合を少し下回っている。

#### d 地域をあげて解決すべき問題や課題

・地域をあげて解決すべき問題や課題で、最も多いのは“高齢者世帯の支援”で、以下多い順に“野生動物や野犬の対策”、“遊休農地の放置・管理”、“自治会や祭など地域活動の担い手不足”、“防災や災害時の避難”となっている。  
・これを子育て世代(40歳代以下)に限ると、“こどもの遊び場”が3番目に入っている。

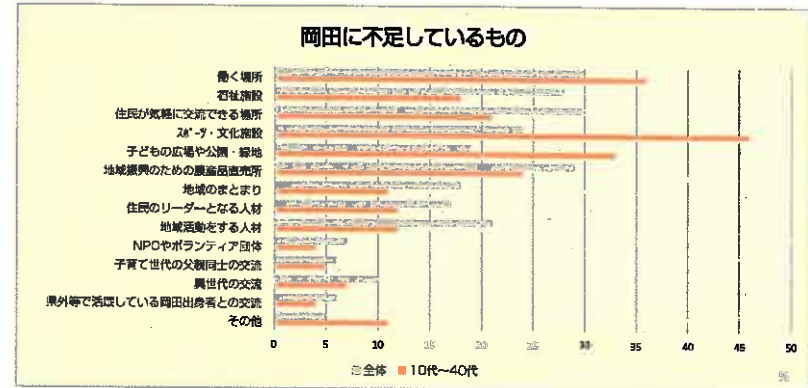


#### e 高齢者や障がい者への支援

・住民の実に84%のひとが、“高齢者や障がい者が安心して住み続けられるように同じ地域に住む住民として何らかの支援が必要”と思っている。  
・また、支援の内容について、圧倒的(62%)に多いのが“高齢者宅の見回りや声掛け”で、以下、“自治会や地域行事の役職免除”、“災害避難時の移動支援”となっている。

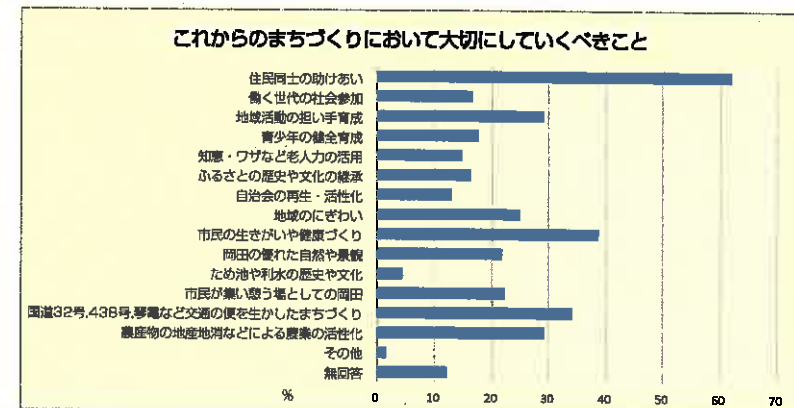
#### f 岡田に不足しているもの・あったらいいもの

・岡田に不足しているものやあったらいいものとしては、一番多いのが“住民が気軽に交流できる場所”で、以下、“働く場所”、“地域振興のための農産品直売所”、“福祉施設”、“スポーツ・文化施設”の順となっている。  
・これを子育て世代に限ると、一番多いのが“スポーツ・文化施設”で、以下、“働く場所”、“こどもの広場や公園・緑地”、“地域振興のための農産品直売所”、“住民が気軽に交流できる場所”と、優先順位がかなり異なるとともに、“こどもの広場や公園・緑地”を重視していることが分かる。



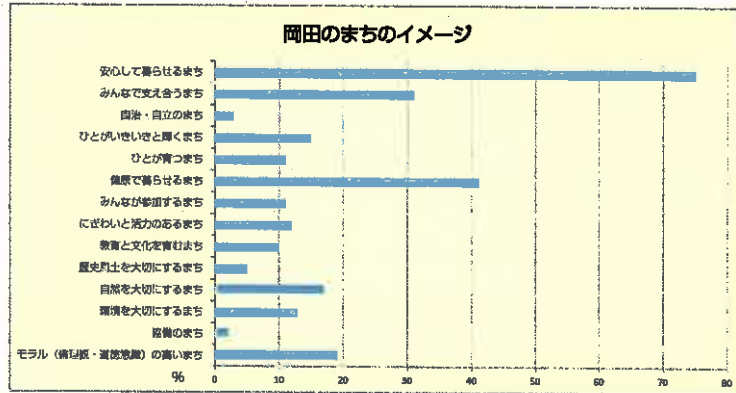
#### g これからのまちづくりにおいて大切にしていけるべきこと

・これからのまちづくりにおいて大切にしていけるべきことについては、“住民同士の助け合い”とするひとが圧倒的(62%)に多く、以下、“市民の生きがいや健康づくり”、“国道32号・438号、琴電など交通の便を生かしたまちづくり”、“農産物の地産地消等による農業の活性化”、“地域活動の担い手育成”の順となっている。



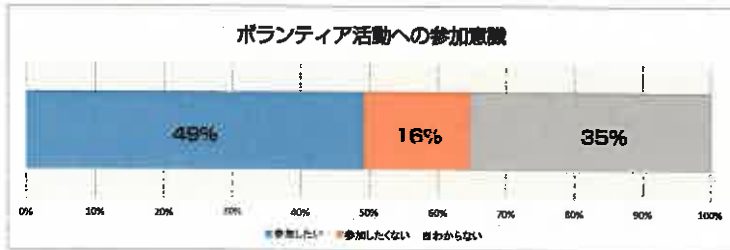
## h 岡田のまちのイメージ

- 岡田のイメージにふさわしいものとしては、“安心して暮らせるまち”を支持するひとが圧倒的(75%)に多く、以下、“健康で暮らせるまち”、“みんなで支え合うまち”、“モラルの高いまち”、“自然を大切にすまち”となっている。



## i ボランティア活動への参加意識

- ボランティア活動への参加意欲を聞いたところ、ほぼ半数のひとが“参加したい”と答えている。



## (2) 住民座談会等での意見

福祉ぶっちゃけ座談会、まちづくりプロジェクトチーム会議、アンケートの自由意見で出された主な地域の問題・課題は次のとおりである。

### a 防災・防犯関係

- 防災関係では、「災害時の情報伝達手段(防災ラジオ、防災無線等)が少ない。」「ため池が多いので決壊等が心配」、「避難時の実際的な対応が具体的にない。」「防災マップ等は一度配ったら終わりではなく、定期的に配ることが必要」、「フェンスやガードレールのない水路沿いの道路があり、大雨のときなどは危険」などの意見があった。
- 防犯(事故防止を含む)関係では、「防犯カメラが少ない。公共の場所には付けるべき」、「パトロール隊だけでは行き届かず、地域の目が必要。田んぼや散歩をしながら子どもを積極的に見守るようにしたい。」「夜間に反射材を付せずに歩行するひとが多く危険」、「国道32号バイパスの4車線化に伴い、交通量が増え、交通事故も増えた。」などの意見があった。

### b 福祉・健康関係

- 福祉関係では、「車を運転できないひとの病院、商店、銀行などへの移動手段確保の問題」、「コミュニティバスの運行ルート」、「身近に支援者がいないひと暮らしや夫婦のみの高齢世帯の問題」、「老老介護の増加」、「いきいきサロンなどの地域の交流の場に出てこない高齢者の問題」、「高齢者の居場所づくりが必要としてもお世話をするひとをどう確保するか」、「障がい者の実態把握ができていないし、交流がない。」「自治会の活動がほとんどないなかで高齢者の支援ができるか不安。」などの意見があった。
- 健康関係では、「介護予防体操の回数が少ない。」「認知症予防のため、高齢者のコミュニケーションの場を各地区に広めてほしい。」「安全なウォーキングコースを提案してはどうか。」「こどもの夏休みのラジオ体操に、地域の高齢者も誘ってはどうか。」「体力テストをして自分の体力を自覚させることで、運動をやる気にさせてはどうか。」などの意見があった。

### c 環境保全関係

- 環境保全関係では、「イノシシの被害や野犬の増加」、「遊休農地を貸農園等で活用できないか。」「天神花壇にこだわらず、広く花づくりを進めてはどうか。」「タバコのポイ捨てや落書きが多い場所の対策が必要」などの意見があった。

### d こどもの育成関係

- こどもの育成関係では、「地域にこどもが少ない。」「こどもが外で遊ばなくなっている。」「ひとりゲーム遊びにふける子が多い。」「こどもの安全な屋外の遊び場がほしい。」「小さなこどもが屋内で自由に遊べる場所が近くであればよい。」「孫の教育についてこどもの親世代とギャップがあり悩んでいるが、気軽に相談できる所があればよい。」などの意見があった。

### e 教育・文化関係

- 教育・文化関係では、「岡田検定、岡田久次郎検定、ため池検定などをやってはどうか。」「久次郎記念館がほしい。」「おかだ学講座をつくってはどうか。」などの意見があった。

### f 地域づくり関係

- 地域づくり関係では、「自治会に入らない家や団地、自治会のない団地が増えて、地域のまとまりがなくなりつつある。」「80歳以上の高齢者には自治会等の役員を免除してもらいたい。」「岡田で地域の夏祭りをしてはどうか。」「小学校の運動会にもっと住民が参加するようにしてはどうか。」「コミュニティセンターにセルフでもいいから喫茶があればよい。」「コミュニティの活動が良くわからない。説明不足でないか。」などの意見があった。

#### アンケート調査

対象者：18歳以上の岡田住民  
 標本数：自治会加入世帯 1256世帯(平成27年8月1日現在)  
 抽出方法：各世帯から代表者1名  
 調査期間：平成27年8月9日～8月31日  
 回収結果：685枚(回収率54.5%)